

NO. 303

じゅんあい

平成24（2012）年6月1日

幼子 乳飲み子の 口によって

「主よ、わたしたちの主よ あなたの御名は、いかに力強く
全地に満ちていることでしょう。

天に輝くあなたの威光をたたえます 幼子、乳飲み子の口によって。
あなたは刃向かう者に向かって砦を築き
報復する敵を絶ち滅ぼされます。
あなたの天を、あなたの指の業を わたしは仰ぎます。
月も、星も、あなたが配置なさったもの。

そのあなたが御心に留めて下さるとは 人間は何ものなのでしょう。
人の子は何ものなのでしょう あなたが顧みてくださるとは。

神に僅かに劣るものとして人を造り
なお、栄光と威光を冠としてただかせ
御手によって造られたものをすべて治めるように
その足もとに置かれました。

羊も牛も、野の獣も 空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。
主よ、わたしたちの主よ あなたの御名は、いかに力強く
全地に満ちていることでしょう。」 (詩編 8:2~10)

神は、救いの歴史の中で大人の知者学者によってではなく
“幼子、乳飲み子”を用いて御自身の御業を進められるケースが数知れ
ぬほど多い。幼子サムエルを用い、少年ダビデを用い、“パンの奇跡”
においては少年のささげた5つのパンをもって大人の男子だけで50
00人もの人々を養われた。

さらに、キリストの直弟子12使徒の選びにおいて、教養のない
漁師であるペテロらをあえて選ばれた。

「兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみな
さい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力の
ある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。

ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、
力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選びました。
また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、
身分の卑しい者や見下げられている者を選びましたのです。

それは、だれ一人、神の前で誇ることはないようにするためです。

神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

『誇る者は主を誇れ』と書いてあるとおりになるためです。」

(第一コリント 1:26~31)

「イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。

イエスは、『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。



そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、船の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。この二人もすぐに、船と父親とを残してイエスに従った。」

(マタイ 4:18~22)

さらにキリストの迫害者であった若者サウロを選び福音の使徒と変えられるのであった。

「さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。

ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天か

らの光が彼の^{まわ}りを^て照らした。

サウロは地に^{たお}れ、『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。

『主よ、あなたはどなたですか』と言うと、答えがあった。

『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。』

同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。

サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。

ところで、ダマスコにアナニアと言う弟子がいた。
^{まぼろし}幻の中で主が、『アナニア』と呼びかけると、アナニアは、『主よ、ここにおります』と言った。

すると、主は言われた。『立って、“^{ちよくせんどお}直線通り”と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。』

しかし、アナニアは答えた。『主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者に対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。ここでも、御名を呼び求める人をすべて^と捕らえるため、祭司長たちから^{けんげん}権限を受けています。』

すると、主は言われた。『行け。あの者は、^{いほうじん}異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ^{うつわ}器である。わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、

わたしは彼にしめ示そう。』

そこでアナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。『兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、せいれい聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。』

すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで身を起こして「バプテスマ」洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。」

(使徒言行録 9 : 1~19)

それ故ゆえパウロは、イエスから与えられた愛に、命がけの愛をもってこたえんと生涯を完全に主に捧げ、ささ東奔西走するのであった。

「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。」

(ローマ 1 : 16)

常にキリストの御前みまえに自分を投げ出し、幼子であることを忘れず、キリストを崇め、キリストに仕える姿勢あがを保ってゆくことの必要性を痛感させられる。キリストも僕しもべの姿けんそんとなって謙遜けんそんの美を示された。



「そこで、あなたがたにいく幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、れい“霊”による交わり、それにいづく慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。」

何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。

人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。
このため神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」

(フィリピ 2:1~11)

幼子、乳飲み子であることを誇りとし、造り主なる主を仰ぎ、主に仕えてゆく心を保ち、生涯、一修道者であることを忘れず、たえず主に愛せられ、生涯主をお愛しする僕でありたい。

「心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。」

(マタイ 5:3)

殉愛キリスト教会

牧師：山 縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/>